


## 環境会計

環境保全活動を客観的に評価していただくために、コマツでは環境会計を公表しています。

### 環境保全コスト（投資及び費用）

第三者保証 

対象：コマツ国内グループ生産事業所（技術イノベーションセンタ含む）

環境保全コストの 分類	投資			費用			
	2016年度	2017年度		2016年度	2017年度		
	投資額（※ 1） （百万円）	投資額（※ 1） （百万円）	主な内容	費用（※1） （百万円）	費用（※1） （百万円）	主な内容	
1. 事業エリア内の 環境負荷抑制コスト	1,281	1,198		2,344	2,316		
内訳	(1)公害 防止コスト	93	115	■ 公害防止設備設 置・改造のための 投資	447	420	■ 大気・水質汚染、 騒音・振動防止設 備等の維持管理費 （人件費、償却費 など）
	(2)地球 環境保 全コス ト	1,167	1,052	■ 省エネルギー対策 投資 （省エネ設備な ど）	1,116	919	■ コージェネレーショ ンシステム等の省 エネルギー設備の 維持管理費（人件 費、償却費など）
	(3)資源 循環コ スト	21	31	■ 廃棄物減量化のた めの投資	781	977	■ 廃棄物処理費用
2. 上・下流の環 境負荷抑制コ スト	0	0	■ 環境保全対応の製 品サービスを提供 するための追加的 投資	295	307	■ 量産機種の環境負 荷低減	

## 環境会計

環境保全コストの 分類	投資			費用		
	2016年度	2017年度		2016年度	2017年度	
	投資額 (※1) (百万円)	投資額 (※1) (百万円)	主な内容	費用 (※1) (百万円)	費用 (※1) (百万円)	主な内容
3. 管理活動における環境保全コスト	90	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場美化のための投資等</li> </ul>	787	790	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境マネジメントシステム維持費用</li> <li>緑地推進、工場美化などのための費用</li> </ul>
4. 研究開発活動における環境保全コスト	204	356	<ul style="list-style-type: none"> <li>環環境負荷低減のための研究施設等</li> </ul>	16,896	19,514	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品の環境負荷低減のための研究・開発費</li> <li>環境を保全する建設機械の研究開発費</li> </ul>
5. 社会活動における環境保全コスト	0	0		11	17	
6. 環境損傷に対応するコスト	0	7		383	178	<ul style="list-style-type: none"> <li>土壌、地下水調査及び汚染対策費</li> <li>PCB処理費</li> </ul>
<b>総計</b>	<b>1,575</b>	<b>1,581</b>		<b>20,714</b>	<b>23,122</b>	

※1 投資、費用ともに、金額は百万円未満を四捨五入して表示しています。

## 環境効果

第三者保証 

## 環境負荷抑制効果

対象：コマツ国内グループ生産事業所（技術イノベーションセンタ含む）

環境負荷項目	増減量 (t/年)	対前年比増減率 (%)
CO <sub>2</sub> 排出量	22,872	12.6
水使用量	613,625	22.8
廃棄物発生量	2,353	16.8

## 経済効果

対象：コマツ国内グループ生産事業所（技術イノベーションセンタ含む）

実質効果			環境リスクの回避効果（※2）	利益寄与効果（※2）
層別	効果金額 （※1） （百万円）	主な内容		
省エネルギー	320	省エネ設備導入など	※ 2017年度、環境を汚染するような重大な事故、法令違反はありませんでした。 ※ 2017年度、訴訟費用は発生しませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 環境保全建設機械事業収入</li> <li>■ 製品の環境負荷低減による付加価値向上などの事業収入（エンジンなど）</li> </ul>
省資源	31	バイオマスによる冷暖房費削減		
廃棄物削減	31	分別の徹底によるリサイクル化推進		
有価物売却	354	スクラップ、古紙、廃油等の売却		
その他	15	—		
<b>総計</b>	<b>752</b>			

※1 金額は、百万円未満を四捨五入して表示しています。

※2 環境リスクの回避効果と利益寄与効果については、記述情報として記載しました。考え方と効果の把握については、今後さらに検討を進めていきます。なお、利益寄与効果について記述内容に関連する事業の2017年度の売上高はそれぞれ次のとおりです。

■ 環境保全建設機械事業

19億円

■ エンジン事業

1,864億円

（エンジンは建設機械の動力源として、建設機械事業全体に関わりますが、上記売上高はエンジンについての社外および社内振り替えを含むコマツグループ向け売上高の合計を記載しています）

## 社会的効果（※1）

### 環境負荷抑制効果

- 環境循環型工法による環境負荷の低減
- 製品が与える環境負荷の低減
- リマン事業による廃棄部品の低減

### 実質効果

- 廃棄物処理費用等の削減
- 運転経費や維持費の節約
- 修理費低減

※1 お客さまがコマツの製品を使用する状況での社会的効果についても、記述情報として主な事項を記載しました